

# 図工・美術科学習指導研究委員会

## 一 研究テーマ

子どもたちが生き生きと表現活動をするための学習指導のあり方  
～素材との対話・友との対話を通して～

## 二 テーマ設定の理由

### (1) 図工美術同好会との共同研究

- ・本年度は、上小地区で第78回長野県美術研究大会 東信ブロック大会が開催された。東信ブロック大会へ協力することで、図工・美術学習指導委員会としても東信ブロック大会を研修の場としたいと考えた。本年度は、研究テーマの「対話」に関連させて、対話型鑑賞に焦点を当てて研究を進めてきた。
- ・実技講習会を上小図工美術同好会と共同開催し、研修を深めることで、普段じっくりと行うことが難しい教材研究の機会を設け、学習指導に活かしていきたいと考えたため。

### (2) 日々の授業に活かせる実践

- ・図工・美術学習指導委員会には、美術専門外の先生方が半数以上を占める。その中で、専門外の先生方でも日々の授業に活かせるような実践・他教科にもつながるような実践を模索していきたいと考えたため。
- ・上田市立美術館などの地域にある美術館と連携を図り、技能向上や授業改善を図っていききたいと考えたため。

## 三 研究の経過

第1回委員会	5月 1日(木)	上小教育会館	年間計画作成
第2回委員会	7月 3日(木)	長小学校	東信ブロック大会事前授業公開
第3回委員会	7月17日(木)	塩田中学校	東信ブロック大会事前授業公開
第4回委員会	8月 6日(水)	上田市立美術館	実技講習会
第5回委員会	11月14日(金)	長小学校・塩田中学校	東信ブロック大会授業公開
第6回委員会	11月25日(火)	上小教育会館	活動の反省・まとめ

## 四 研究の内容

### Ⅰ 第79回長野県美術教育研究大会 東信ブロック大会(会場校:長小学校、塩田中学校)への協力

#### (1) 長小学校

<事前>7月3日(木)2年生

自分のお気に入りの石を見つけ、対話による鑑賞し合う授業。

児童は最初、担任に向けて話をしていたが、ある児童が見つけた石を見る場面で子どもたちが自然に対話をはじめ、その後の石探しでは友だちと対話しながら「お気に入りの石」を見つけていた。

<本番>11月14日(金)4年生

地元出身の画家、白井ゆみ枝さんの作品について対話による鑑賞を行った。

児童は、自分の見方と感じ方を働かせ、見えるものや感じるもの、想像した物語などを語っていた。職員による研修では白井さんの作品と上田市立美術館の作品をお借りし、対話による鑑賞を行った。ファシリテーターとして学芸員の方にもご協力いただいた。

<研究を通して明らかになったこと>

- ① 問いが生まれると自然と対話が始まる。
- ② 子どもたち同士をつなげる教師の出が大切であること。
- ③ 問いや課題は先生にあるのではなく子どもたちの中にあること。
- ④ 『何が見えた』から一步踏み込む教師の出。『もの』ではなく『こと』を語りたい。
- ⑤ 五感を働かせるような問い返しが、見方を広げたり深めたりするために重要。

## (2)塩田中学校

<事前>7月17日(木)中学1年生

ブラインドトークと名付けた新しい対話型鑑賞の提案をした授業。

「散歩・日傘をさす女」(クロード・モネ)、「夜のカフェテラス」(ゴッホ)をブラインドトークし、「絵を見るポイント」を考えた。その2絵から1つ選び、その絵が物語っていることを「絵を見るポイント」から自由に想像し、自分なりの見方で考えた。

<本番>11月14日(金)中学2年生

明暗だけが異なる2つの絵を比較鑑賞し、光の効果を考えた対話型鑑賞の提案をした授業。

明るさが異なる2つの「夜警」(レンブラント・ファン・レイン)を対話型鑑賞し、光によって変化すること(=光の効果)を根拠に2つの絵にそれぞれ題名をつけた。

<研究を通して明らかになったこと>

- ① 日頃から絵から見つけたものを根拠に自由に話し合う経験を積み重ねていくことが大切であること。見方を積み上げていくことが重要であり、その一つの新しい方法が、ブラインドトークである。個人的に行ってきたものであるが、価値のある方法だと認めていただくことができたこと。
- ② 個人で考えた後にグループ活動やペア活動を仕組み、また個に戻すなどといった題材をデザインする重要性があること。鑑賞においては、特に最初と最後に個で考えを記入する時間を設け、最初と最後での考えの変化を読み取れるようにしておくとうまいということ。

## 2 上小美術研究会とタイアップした教材研究・授業構想

8月6日(水)、上田市立美術館(サントミュージーゼ)の子どもアトリエで、サクラクレパス(株)の門馬さんを講師としてお招きし、クレパスの使い方についての講習会を行った。上田市にゆかりのある山本鼎が製作に関わったクレパスの知識だけでなく、こする、塗り重ねるといった技法やその生かし方について、実技を通して学ぶことができた。(参加人数 12名)

## 五 研究のまとめと課題

本年度は、子どもたちの学習活動が、より主体的で対話的なものになるために、素材と子どもたちとの対話、友との対話に焦点を当てて研究を進め、長野県美術教育研究大会東信ブロック大会が上田市で開催されたため、7月の事前授業・11月の本番への協力を中心に活動してきた。対話による鑑賞における、教師の問い返しの重要性を再確認することができた。

また、上田市立美術館の協力のもと、サクラクレパスより講師をお招きして、クレパス・クレヨン・パステルの違いや技法を実際に体験し、日々の授業に活用できる内容を学ばせていただいた。

課題については以下のことが挙げられたので、次年度に向けて引き継いでいきたい。

<課題>

○来年度は、教育課程研究協議会での授業公開もなく長野県美術教育研究大会も北信で行われるため、図工・美術学習指導委員会の活動の内容を見直すことが必要であること。

⇒本年度は研究授業への協力が主な活動であったが、来年度は上田市立美術館の学芸員さんと関わり学ぶ活動を軸にして活動すると良い。

○上田市立美術館(サントミュージーゼ)で紹介して頂いたような題材を知ること、前向きに図工美術の授業に取り組みたり題材の引き出しが増えたりすることはありがたい。続けていきたい。

⇒上小美研主催の実技講習会に来年度もタイアップさせていただけると、美術専門以外の先生方も参加できて良いと思われる。来年度も継続していく方向が良い。